加藤隆司さんの急逝を悼む

宇都宮大学国際学部の加藤隆司さんが急逝されました．4月4日に自宅で意識不明で倒れているところを発見され病院に運ばれましたが，5日の未明に容態が急変し亡くなりました．死因は脳梗塞ということです．電波天文の連続波観測の分野での中堅研究者として，また計算機およびネットワークの専門家としてこれからの活躍が期待されていただけに，その早すぎる逝去は惜しまれてなりません．

加藤さんは愛知県新城市で生まれ，県立時習館高校から名古屋大学理学部物理学科に進まれました．そして，学部時代から電波天文に興味を持ち，大学院の後期課程までA研に所属しました．この間に彼は波長8mm太陽電波干渉計の装置立ち上げ，さらに1.5mおよび4m短ミリ波望遠鏡の建設や，それらを使った観測に参加しました．1982年に宇都宮大学教育学部に就職した彼は，田原博人さんや野辺山宇宙電波観測所の連続波観測グループと共同で，電波銀河などの電波源の観測的研究をはじめました．特に，彼が作った電波源データベースは非常に膨大なもので，多くの研究者がこれを利用しています．

また，1985年に共同で立ち上げた45m電波望遠鏡の8ch偏波観測システムによる短波長の高精度偏波観測は世界的に誇るものでした．これによる非常に大きなファラデー回転を示す電波源の発見は世界に大きな驚きを与えました．

加藤さんは，その大きな身体に似合わず器用な人でハードウェアでもソフトウェアでも何でもこなせる人でしたが，宇都宮大学に行ってからは特に計算機関連の仕事が多くなっていったようです．自分の机のまわりには様々な最新鋭のパソコンやワークステーションが並んでいるよ，とよく自慢されたものです．

次第に計算機の専門家になっていった加藤さんは，大学の計算機システム運用に関わるようになり，ついには新しい計算機ネットワークシステムの設計の責任者を引き受けることになりました．また，ここ数年は野辺山の次期計算機システムの基本構成をめぐる検討にも参加してくれました．中途半端な計算機責任者の私としては大いに助かったものです．さらに，宇宙電波懇談会のネットワーク（radionet）やWWWサーバの世話人を引き受け，昨年ようやく運用開始にこぎつけました．

彼はとても優しく世話好きな性格の人で，常に人のいやがるような仕事を引き受けてくれました．人への気配りも忘れない人で，野辺山に来るときに秘書の人たちに決しておみやげを忘れたことがありません．これは，名古屋大学時代からそうだったそうで，彼のためなら，どんな仕事でも秘書や技官の人たちが引き受けてくれる，という話を聞いたことがあります．

また，やはり実にたくさん食べる人でした．学会の懇親会などでは要領の悪い私でも彼のそばにいれば豊富な食べ物にありつけたものです．

昨年の学内の計算機システムの立ち上げで過労気味であったところへ，私たちがradionetの立ち上げや，LMSAサイトのためのチリでの現地調査に彼を頼んだことが彼の命を縮めたのではないかと，後悔しています．

彼が残していったソフトウェアやネットワーク資産を何とか我々で受け継がなければならないと思う一方で，一人の大事な仲間を失ったという寂しさをたまらなく感じています．

森田耕一郎